



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久 (APIR 研究統括)

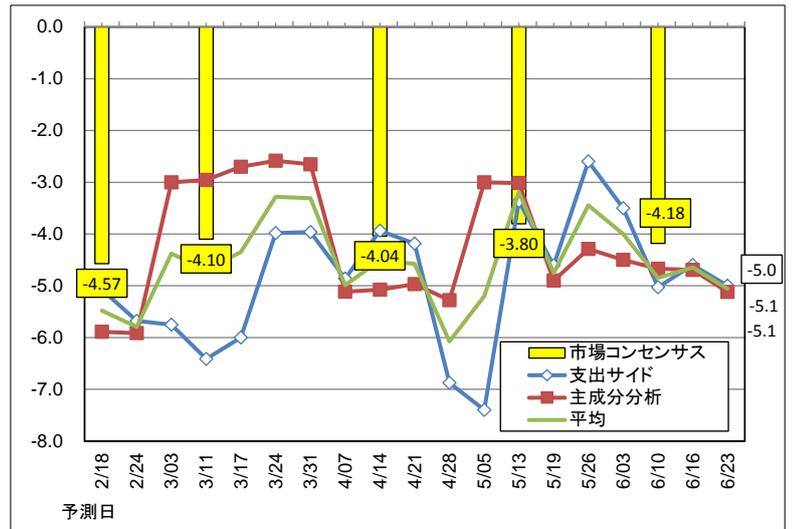
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2014年6月23日)

ポイント

- ▶今回更新されたデータは、5月の貿易統計、4月の毎月勤労統計(確報値)及び建設総合統計である。これらは、民間企業設備、公的固定資本形成、純輸出及び雇用者報酬の予測値に影響を与える。
- ▶公共工事請負金額の足下動向から公共工事の大幅拡大が期待される場所であるが、未消化率が上昇しており、請負金額の上昇がただちに公共工事の拡大に繋がらないことに注意しなければならない。
- ▶5月の貿易収支(季節調整値)は39カ月連続の赤字となったが、前月比-2.1%小幅縮小した。2カ月連続のマイナス。4-5月平均の貿易赤字は1-3月平均比-41.9%縮小した。
- ▶今週の超短期モデル(支出サイド)は、4-6月期の実質 GDP 成長率を前期比年率-5.0%と予測。先週の予測から小幅下方修正。同期は純輸出が拡大に転じるが、内需が駆込み需要の反動で大きく縮小する。
- ▶先週は、公共工事の拡大が期待でき貿易収支が改善するとすれば、4-6月期の実質 GDP 成長率の大幅マイナスは引き続き縮小が期待されるとしたが、現実には逆の動きとなった。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2014年4-6月期 (%、前期比年率換算)



<純輸出の改善は緩やか、公共投資拡大は期待薄となり、4-6月期の成長率予測は先週から下方修正>

今回更新されたデータは、5月の貿易統計、4月の毎月勤労統計(確報値)、全産業活動指数、全産業供給指数、建設総合統計及び景気動向指数(改訂値)である。これらのデータは、民間企業設備、公的固定資本形成、純輸出及び雇用者報酬の予測値に影響を与える。

公共工事請負金額の足下動向(4-5月)からは、4-6月期に公共工事の大幅拡大が期待される場所であるが、現実にはなかなか進捗していない。公共工事の未消化率が上昇しており、請負金額の上昇がただちに公共工事の拡大に繋がらないことに注意しなければならない。

4月の公共工事は前年比+9.7%増加した。27カ月連続のプラスだが、7カ月連続で伸びが減速。季節調整値は前月比-2.6%減少し5カ月連続のマイナス。結果、4月実績は1-3月平均比-3.6%低い水準となっている。

5月の貿易収支は-9,090億円と23カ月連続の赤字となったが、赤字幅は前年比-8.3%減少した。季節調整値は-8,622億円と39カ月連続の赤字となったが、前月比-2.1%小幅縮小した。2カ月連続のマイナス。4-5月平均の貿易赤字は1-3月平均比-41.9%縮小した。

今週(6/23)の超短期モデル(支出サイド)は、4-6月期の実質 GDP 成長率を前期比-1.3%、同年率-5.0%と予測。先週の予測(-4.6%)から小幅下方修正となった。同期は純輸出(前期比+0.6%)が拡大に転じるが、内需が駆込み需要の反動で大きく縮小(前期比-1.9%)する。先週は、公共工事の拡大が期待でき、貿易収支が改善するとすれば、4-6月期の実質 GDP 成長率の大幅マイナスは引き続き縮小が期待されるとしたが、現実には逆の動きとなった。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690